



学力調査の結果より

<3年生国語> 全国平均をやや下回る

強み

基礎的な文法知識の定着と文章の構造を把握する力は全国平均を上回っており、知識・技能の面で堅実な基盤があることがうかがえます。このことから、文章の全体像を捉えたり、学習した言語事項を具体的な文脈に当てはめたりする基礎的な処理能力は十分に備わっていると考えられます。

弱み

文脈に応じた語彙の活用と論理的な記述力に課題が見られます。記述式問題全般においてこの傾向は顕著であり、話し合いを受けて自分の意見を書く問題では、無解答率が25%から27%前後となっています。これは、単に正解に辿り着けないだけでなく、自分の考えを文章として構成すること自体に苦手意識や抵抗感を持つ生徒が多いことを示唆していると考えられます。

今後に向けて

記述力向上のため、いきなり文章を書かせるのではなく、条件や根拠を整理する段階を設けることで、記述式問題の無解答率を低減させたいと考えています。また、話し合いの場面では、相手の助言を踏まえて自分の文章を改善する活動を重視し、目的や場面に応じた最適な表現を選択する力を養い、言葉の機能や効果を実感させることで、表現への意欲と論理的思考力の一体的育成を目指せればと考えています。

<3年生数学> 全国平均をやや下回る

強み

基本的な数量の処理やデータの読み取り能力、負の数を含む計算の基礎は概ね定着しているようです。また、図表から必要な情報を抽出する技能は身に付いていると思われます。全体的に、基本的な代数操作の土台は構築されていると考えられます。

弱み

課題は、「数学的な説明」および「図形の論理的な考察」であり、特に記述式問題の正答率と無解答率の高さが気になる点です。思考の過程を言語化する力や平行線になるための条件などの正答率が全国平均を大きく下回っていることから、単一の解を求めることはできても、その根拠や手順を論理的に説明するプロセスにおいて多くの生徒がつまずいているといえます。



今後に向けて

日常の授業で「解法のプロセスを言語化する活動」の強化が必要であり、グラフや式を活用して問題を解決する際、その「手順や方法」を記述する場面を意図的に設定するなどの方法が考えられます。数学的な表現を用いて伝える力を育てていきたいと考えています。

<2年生国語> 県平均を下回る

強み

文章中の主語と述語の関係を的確に捉える設問や、比喩を用いた表現の理解においては高い正答率でした。また、行書の特徴を理解し、その特徴を踏まえた書き方を説明する能力も県平均に近い水準でした。話合いの流れを捉え、他者の発言と自分の考えを結び付けて記述する設問でも一定の成果が出ており、対話的な学習の基礎は構築されていると考えられます。

弱み

言語生活に即した知識の活用、具体的には、敬語の適切な使用や、案内文における差出人・日付などの形式的な構成の理解が不十分といえます。また、案内文の内容を相手に合わせて書き直す設問や、手紙の推敲において語句の用法や叙述の仕方を修正し、その理由を具体的に記述する設問において、論理的な一貫性が欠ける傾向にあるようです。

今後に向けて

単に知識を覚えるだけでなく、実際の案内文やメールの推敲を通じて、読み手の立場に立った表記や表現の最適化を意識させる指導が大切だと考えています。記述問題では、主張と根拠の関係を明確にするため、接続詞を適切に使いこなす練習も必要だと思われます。

<2年生数学> 県平均を下回る

強み

「数と式」領域が県平均を超えており、特に負の数の計算や指数を含む計算、素因数分解といった代数的な計算技能は身につけているようです。また、円の面積との関係を判断する力も備わっています。代数計算や定型的な図形の性質の把握については、着実に習得が進んでいると考えられます。

弱み

数学的な事象を解釈し、論理的な根拠を伴って説明する記述問題に課題があるようです。例えば、キャップの個数を求める方法を説明する設問や、図形の回転移動の条件を数学的に説明する設問の正答率が低いようです。理解はできているものの、その内容を表現する力が不足していると考えられ、このことは国語力が弱いことを示唆していると考えられます。

今後に向けて

全体的に公式の暗記にとどまらず、作図の原理を対称性から説明したり、変化の割合の意味を具体例で語らせたりする言語活動を増やす必要があります。確かに難しいですが、記述問題の無解答を減らすため、説明に必要な「キーワード」を提示し、それらを論理的に繋いで表現する方法を習得する必要があるように思われます。



3年英語、2年理科、1年については、次号掲載とします。